



2021年11月25日

各 位

会社名 株式会社テ・ウエスタン・セラビ°テクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号:4576)
問合せ先 経営企画室長 山北 真子
TEL 052-218-8785

緑内障・高眼圧症治療剤「K-232」
(リパスジル塩酸塩水和物とブリモニジン酒石酸塩の配合点眼剤)
の国内製造販売承認申請のお知らせ

当社が創製した Rho キナーゼ^(注1) 阻害薬『リパスジル塩酸塩水和物』につき、ライセンスアウト先の興和株式会社(以下、「興和」)より、リパスジル塩酸塩水和物とブリモニジン酒石酸塩^(注2)との配合点眼剤「K-232」(以下、「本剤」)の緑内障・高眼圧症^(注3)を適応症とした国内製造販売承認申請を、本日、厚生労働省に行った旨の連絡を受けましたのでお知らせいたします。

本剤は、Rho キナーゼ阻害薬の「グラナテック®点眼液 0.4%」の有効成分『リパスジル塩酸塩水和物』と、アドレナリン α_2 受容体作動薬の『ブリモニジン酒石酸塩』を含有する世界で初めての組み合わせの配合点眼剤です。本剤は、既存の配合点眼剤と薬理的な作用点異なるため、様々な緑内障・高眼圧症治療剤との併用が可能となります。

2020年2月より国内第Ⅲ相臨床試験が行われており、本剤は、単独での使用及び既存の緑内障・高眼圧症治療剤と併用での使用のいずれの場合でも、更なる眼圧下降効果と安全性が確認されました。当社は、標準的な事例からの推測として、約1年後の審査完了を見込んでいます。

緑内障の治療は、多剤併用が標準的な治療法となりつつあります。本剤により、アドヒアランスの向上が期待され、緑内障患者様の治療に貢献できるものと考えております。

本件によるマイルストーン受領の予定はなく、2021年12月期の業績に影響はありません。なお、本剤が承認となり販売開始されますと、当社は興和から契約に基づく実施料を受領いたします。これは当社の中長期的な業績向上に資するものと考えております。

グラナテック®点眼液 0.4%について

グラナテック®点眼液 0.4%は、興和が 2014 年 12 月より日本国内販売をしている世界初の作用機序を有する緑内障・高眼圧症治療剤であり、Rho キナーゼを阻害することにより、線維柱帯-シュレム管を介する主流出路からの房水流出を促進することで眼圧を下降させます。

日本で実施した原発開放隅角緑内障及び高眼圧症の患者様を対象とした臨床試験において、グラナテック®点眼液 0.4%は、単独での使用及び既存の緑内障・高眼圧症治療剤と併用での使用のいずれの場合でも、眼圧下降効果を示すことが確認されております。

以 上

用語解説

(注1) Rho キナーゼ (ROCK : Rho-associated, coiled-coil containing protein kinase)

Rho キナーゼはタンパク質リン酸化酵素 (プロテインキナーゼ) の一つであり、Rho-ROCK 経路を介する多彩な細胞応答の制御機構に関与する酵素です。

(注2) ブリモニジン酒石酸塩

ブリモニジン酒石酸塩を有効成分とする点眼剤は、アドレナリン α_2 受容体に作用し、房水産生の抑制及びぶどう膜強膜流出路を介した房水流出の促進により眼圧下降を示します。緑内障・高眼圧症を適応症とする点眼剤として、米国を始めとして多くの国で販売されております。

(注3) 緑内障・高眼圧症

緑内障とは、視神経と視野に特徴的変化を有し、通常、眼圧を十分に下降させることにより視神経障害を改善もしくは抑制しうる眼の機能的構造的異常を特徴とする疾患です。適切に治療されずに放置すると視野狭窄から失明に至る疾患であり、日本の中途失明原因の第一位 (2005 年) となっております。また、高眼圧症とは、視野狭窄が無いものの、眼圧が正常値を超えている病態です。

現在、緑内障のエビデンスに基づいた唯一確実な治療法は、「眼圧を下降すること」とされており、原発開放隅角緑内障 (広義) に対する治療では、薬物治療が第一選択とされております。